

# 国立オリンピック記念青少年総合センター



外観

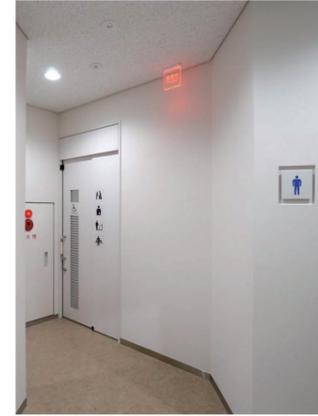
青少年および教育指導者などの各種研修や、文化・芸術、スポーツ、国際交流など、幅広い活動の場と機会を提供する国内最大の都市型青少年教育施設。研修室やホール、スポーツ施設、宿泊施設などを擁する。



センター棟トイレ入口



トイレのレイアウトや内部の設備が確認できるよう、入口に案内サインを掲示。さまざまな身体状況や利用者にあわせて選択できるよう、男女トイレ・バリアフリートイレ・男女共用トイレが用意されている。



センター棟バリアフリートイレ入口



バリアフリートイレの扉には、設備内容がひと目でわかるピクトサインを表示。入口上部にある「使用中」のサインは、入室後、扉を施錠すると赤く点灯。空室時は青で点灯され、わかりやすく工夫されている。



センター棟バリアフリートイレ



車いす使用者やおストメイト、お子様連れなどさまざまな利用者に対応できる設備を完備。さらに、車いすでアプローチできる十分な広さを確保している。



センター棟男女トイレ入口



男女トイレは、ひと目でわかるようにサインを色分けしている。また、性別を問わず利用できる男女共用トイレを男性トイレに隣接して配置し、男女共用とひと目でわかるよう「All gender toilet」と表示している。



センター棟男女共用トイレ



男女共用トイレは、性別を問わず利用できるほか、お子様連れにも配慮し、ベビーシートやベビーチェア、フィッティングボードを備え、ゆったりとしたスペースを確保している。



センター棟女性トイレ洗面・スタイリングコーナー

洗面コーナーには、機能的なツインデッキカウンターを採用。また、お化粧直しに配慮して、スタイリングコーナーを新設している。



センター棟女性トイレ大便器コーナー



大便器は連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式、ウォシュレットはエコリモコンを搭載したウォシュレットPSを採用。また大便器ブースの間仕切り壁を天井まで立ち上げ、個室感を高めている。



センター棟男性トイレ洗面コーナー

洗面コーナーには、清掃性に優れたツインデッキカウンター（ボウル一体タイプ）を採用。衛生面に配慮し、自動水栓とオートソープディスペンサーを設置。1ヶ所は、お子様が使いやすいよう低め（H=600mm）にしている。



センター棟男性トイレ小便器・大便器コーナー



ユニバーサルデザインに配慮し、低リップの自動洗浄小便器を採用。1ヶ所に手すりを設置。また、バリアフリートイレの利用集中を分散させるため、男女トイレともに、ベビーシートなどを備えたひろびろブースを設置。



国際交流棟

国際交流棟は、国際理解や交流に関する事業を促進するため、多様な事業に対応できる国際会議室、ミーティングルーム、レセプションホールなどの施設や設備を備えている。通路にもトイレの位置がわかるサインを掲示。



国際交流棟トイレ入口



今回トイレ改修された、センター棟と国際交流棟、地下駐車場には、バリアフリートイレと男女共用トイレを新設している。

# 国立オリンピック記念青少年総合センター



国際交流棟  
バリアフリートイレ

バリアフリートイレには、ベビーチェアや幼児用大便器を設置し、親子で一緒に利用できるように配慮。そのほか、パウチ・しびん洗浄水栓付背もたれや大人が衣服の着脱で利用できる収納式多目的シートも完備している。



国際交流棟  
男女共用トイレ

バリアフリートイレの利用集中を分散させるため、個室完結型の男女共用トイレを2ヶ所新設。男女トイレの各入口に近い位置に配置し、異性の同伴者やトランスジェンダーなどが利用しやすいよう配慮している。



地下駐車場 トイレ入口



地下駐車場のトイレは、ほかのトイレ同様に、さまざまな利用者や身体状況にあわせて選択できるよう、男女トイレ・バリアフリートイレ・男女共用トイレを配置している。



地下駐車場  
バリアフリートイレ

バリアフリートイレには、車いす使用者やお子様連れ、オストメイト、大型ベッド利用者など、さまざまな利用者に対応できる設備を完備している。



地下駐車場  
男女共用トイレ



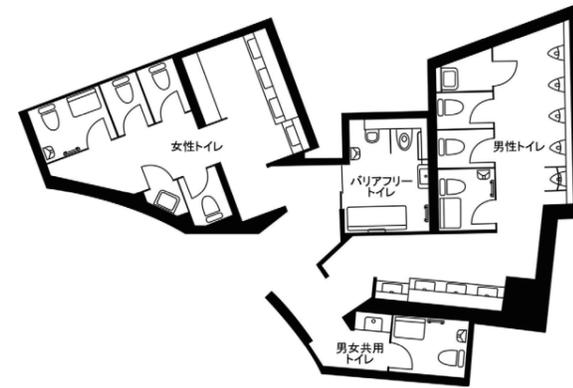
お子様連れやトランスジェンダーなど、さまざまな利用者に配慮した個室完結型の男女共用トイレを設置。乳幼児連れに配慮して、ベビーチェアを備えゆったりとしたスペースを確保している。



トイレサイン

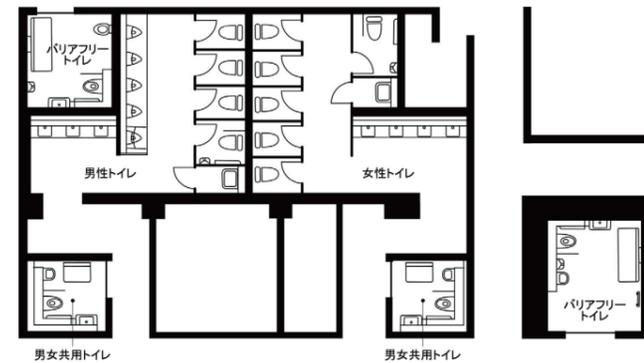


バリアフリートイレには、車いすのピクトと「Accessible facility」、男女共用トイレには、男女のピクトと「All gender toilet」を表示している。



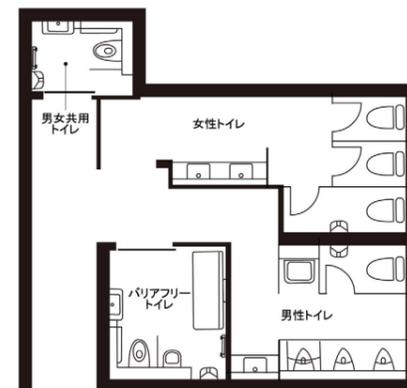
センター棟 トイレ図面

センター棟は、エントランスホール側にトイレスペースを拡張し、男女共用トイレを新設。利用者は、男女トイレ・バリアフリートイレ・男女共用トイレから選択して利用できる。



国際交流棟 トイレ図面

国際交流棟は、倉庫や喫煙所だった場所をトイレにリノベーション。既存の男女トイレそれぞれの入口に近い位置に男女共用トイレを新設し、異性の同伴者やトランスジェンダーなどが利用しやすいよう配慮している。



地下駐車場 トイレ図面

地下駐車場は、2ヶ所あったバリアフリートイレのうち、1ヶ所を車いす優先のバリアフリートイレとしオストメイト設備を新設。もう1ヶ所は、性別問わず利用できる個室完結型の男女共用トイレとしている。

## 水まわりの特長

### 改修の経緯

「国立オリンピック記念青少年総合センター」は、渋谷・新宿からのアクセスがよい緑豊かな環境に立地する、国内最大の都市型青少年教育施設。1964(昭和39)年に開催した第18回オリンピック競技大会の選手村跡地の一部を利用したレガシーとして、研修室やホール、体育館、宿泊施設などを擁し、青少年および教育指導者などの研修や文化・芸術、スポーツ、国際交流など、幅広い活動の場と機会を提供する。このたび老朽化したトイレ設備の更新や3K、5Kイメージの払拭を目的とし、センター棟と国際交流棟、地下駐車場のトイレ改修を実施。変化する世情を鑑みて、お子様から高齢者までの幅広い年代や、さまざまな身体状況の方に加えて、性の多様性にも対応する配慮のもと、研修環境の向上を目指した。

### トイレの特長

このたびの改修に先立ち、障がい者団体を通じてさまざまな身体状況の方へヒアリングを実施。また、TOTOテクニカルセンターでの改修提案を通じて、さまざまな利用者が安心・安全に使えるようユニバーサルデザイン実現のための検証・検討が進められた。改修した各棟のトイレには、男女トイレやバリアフリートイレのほか、性別を問わず利用できる男女共用トイレを新設することで、利用者が使いたいトイレを選べるよう工夫を凝らした。さらに、バリアフリートイレの利用集中を避けるため、お子様連れに配慮した設備を、各トイレに分散して設置している。また、センター棟の女性トイレにはスタイリングコーナーを新設するなど、利用者の快適性を向上させている。

## 建築概要

名称	国立オリンピック記念青少年総合センター
所在地	東京都渋谷区代々木神園町3-1
施主	独立行政法人国立青少年教育振興機構
設計	株式会社坂倉建築研究所 大阪事務所
監理	独立行政法人国立青少年教育振興機構
施工	建築 飛鳥建設株式会社(センター棟) 株式会社浅沼組(国際交流棟・宿泊D棟) 株式会社村松組(地下駐車場)
竣工年月	(改修)2023年3月
敷地面積	84,974.22㎡
建築面積	5,473.41㎡(センター棟) / 3,880.87㎡(国際交流棟・宿泊D棟) / 49.14㎡(地下駐車場)
延床面積	18,773.27㎡(センター棟) / 10,957.54㎡(国際交流棟・宿泊D棟) / 7,185.70㎡(地下駐車場)
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造(センター棟) / 鉄筋コンクリート造(国際交流棟・宿泊D棟、地下駐車場)
	地下1階、地上6階、塔屋1階(センター棟) / 地下1階、地上9階、塔屋2階(国際交流棟・宿泊D棟) / 地下2階(地下駐車場)

## おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498系
- ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534A
- 棚付二連紙巻器:YH701
- 自動洗浄小便器:UFS910系
- ツインデッキカウンター(ポウルー一体タイプ):MKWF
- クリーンドライ(ハンドドライヤー):TYC320W
- コンパクトバリアフリートイレバック:UADAK01R系、UADAK21R系、UADAZ11R系、UADAZ01L系
- コンパクトオストメイトバック:UAS8系
- 収納式多目的シート:EWC520ARS
- 幼児用大便器:CS300B
- ベビーシート:YKA25S
- ベビーチェア:YKA15S
- フィッティングボード:YKA41R